

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	17-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Maternal alcohol and tobacco consumption and the association with their 9 to 14-year-old children's Body Mass Index.</p> <p>母親の飲酒および喫煙と 9 歳から 14 歳の子の BMI との関連</p>		
<b>執筆者</b>		
Figueiredo RAO, Roos E, Eriksson JG, Simola-Ström S, Weiderpass E.		
<b>掲載誌</b>		
Scand J Public Health. 2017 Jul;45(5):503-510. doi: 10.1177/1403494817702264. Epub 2017 Apr 6.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
青年、アルコール、たばこ、母親、フィンランド		28385059
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>母親の飲酒、喫煙と子供の青年期における体格との関連に関する報告は多くない。本研究では、BMI を体格指標とし、母親の飲酒および喫煙が子の青年期における BMI と関連するかについて検討した。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>2011年から2014年に実施されたFinnish Health in Teens cohort (Fin-HIT)の対象者のうち、9歳から14歳の男女4,525名およびその母親あるいは女性扶養者を本研究の解析対象とした。子供のBMIは身長および体重測定値を用い算出し、Cole and Lobsteinによる分類に基づき、低体重、標準体重、過体重、肥満に分類した。母親の飲酒は、アルコール摂取障害自己テスト(AUDIT)により禁酒者、低-中等度飲酒者、有害飲酒者に分類し、喫煙は、非喫煙者、過去喫煙者、現在喫煙者に分類した。母親の飲酒・喫煙と子供のBMI群との関連を多項ロジスティック回帰分析により、相対リスク(RR)と95%信頼区間(CI)から算出した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>子供の 74.5%は標準体重であったが、低体重は 10.6%、過体重あるいは肥満は 14.9%の子供に認めた。母親においては、50.6%が非喫煙者、35.7%が過去喫煙者、13.7%が現在喫煙者であった。飲酒状況は、母親の 12.7%が禁酒者、65.0%が低-中等度飲酒者、22.3%が有害飲酒者であった。母親が非喫煙者である場合に比し、現在喫煙者である場合、子が過体重であるリスクが高く (RR=1.36; CI: 1.05-1.76)、過去喫煙者である場合、低体重であるリスクが有意に低かった (RR=0.70; CI: 0.56-0.87)。思春期の子供においては、母親が禁酒者である場合、低-中等度飲酒者の場合と比して、低体重であるリスクが有意に高かった (RR=1.57; CI: 1.03-2.41)。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>母親が現在喫煙者であることは子の過体重と関連し、過去喫煙者であることは低体重と負に関連した。母親が禁酒者である場合、子の思春期における低体重と関連した。他の研究での検証も必要であるが、青年期の健康体重を目指す公衆衛生学的介入には、子供だけでなく家族を対象とすることが必要であろう。</p>		